

平成30年度第1回広島県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

1 日 時 平成30年8月24日（金） 14時00分～15時30分

2 場 所 広島市中区基町10-52 県庁本館4階海区委員会室

3 第1号議案 平成29年度県営林年度実施計画の達成状況について

第1号議案は、原案のとおり承認された。

4 委員からの主な質問・意見（○：質問 ●回答 ◎意見）

- 中期管理経営計画の計画量と実績における計画量が乖離している理由は何か。
- 中期管理経営計画では、立木販売による利用間伐を予定していたが、入札不調や不落があったため、平成28年度に見直しを行い立木販売による利用間伐を中止した。見直し後の計画については、年度別計画で変更している。

- 収支実績で、特別損失が減額している理由は何か。
- 予算上の職員給与費が確定したので減額した。

- 立木販売で不落となった理由と改善策はあるのか。
- 不落の原因は色々あると思われるが、業者から聞取をしたところ、大きく2つ理由があり、1点目は、道が狭く大型トラックが入らないこと。2点目は、近接地に土場が無かったことであった。当該事業地では、数年後に林道の開設が計画されており、林道が開設すれば大型トラックの通行が可能となる。また、事業地内の林道も市が拡幅する予定としている。このため、数年後には、主伐が行えるものと考えている。
- ◎ 不落となった原因を推察・改善し、実行することは重要である。

- 生産性を調査した結果、生産性を上げるための傾向はつかめたか。また、生産性が上がった事業体の効果は何か。
- 調査結果では、「保育が不十分。」「立木が小さいため材積が出ず生産性が低い。」といった声や、トラック道の整備を求める声、積雪の関係から早期発注を求める声があった。また、生産性が上がった事業体から聞取したところ、作業班に目標を持たせて作業を行わせ、日報を付けて検証を行っていた。
- ◎ 生産性を上げるために検証し、PDCAを回すことは効果的であり、重要である。

- 直接協定取引の推進により県営林事業にどのような影響があったか。
- 直接協定取引により、高い価格での取引や、まとまった量を持っていけるといった利点があり、これが経営の安定化につながったものと考えている。今後、主伐が増えると役物の販売のためには市場取引も必要。いかにして仕分けをして出すか、地域性やバランス等も考えて販売する必要があると考えている。

- 素材生産について、今後の主伐に関し何か戦略を考えているのか。

● 搬出条件の良い山で立木販売する必要があると考えている。そのためには、利用間伐を行い、集材路等を作設し、基盤を整備する必要があると考えている。

一方で、事業地や事業体の確保の面などから、利用間伐の適正量を精査する必要があるとも考えている。基盤条件、補助金や労務等を考えて、総合的に判断する必要があると考えている。

◎ 経営改善の取組を分析し、今後に繋げていただきたい。